

SKE48 運営とファンの座談会／議事録



■開催日時 : 2026年3月5日(木) 18:00~20:00

■会場 : SKE48 劇場

■登壇者

株式会社 KeyHolder	代表取締役社長	大出悠史	…	【大出】
株式会社ノース・リバー	代表取締役社長	北川謙二	…	【北川】
株式会社エーカンパニー	代表取締役社長	大山武志	…	【大山】
株式会社ゼスト SKE48	運営責任者	齊藤哲也	…	【齊藤】
同	興行責任者	大竹亮人	…	【大竹】
同	劇場責任者	大塚弘之	…	【大塚】
座談会参加者			…	【参加者】

=====

1. 【株式会社 KeyHolder 代表取締役社長による冒頭のご挨拶】

会の冒頭、大出より、第2回座談会開催にあたっては、ファンのご支援あつての動きであることへの御礼に加え、直近の出来事として①中坂美祐の件ならびに、②組織再編の件それぞれについての説明・報告を行ったほか、特に①に関してはグループ代表として参加者・関係者に対し心配と迷惑をかけたことを謝罪した。さらに、【事前アンケートへの回答】【質疑応答】に先立ち、これら①②に限った質問も受けて回答した。

①中坂美祐の件

- ・非は全面的に会社及びマネジメントにあることを認めた上での謝罪がなされた。
- ・業務の範囲を超えてという主旨について「恋愛関係ではない」ことを明言した。
- ・その上で、本人にも「誤解を招く行為」があったとして、「本人を含めて納得の上での公表」であったこと、「中坂美祐は元気である」こと、「復帰に向けた話し合いはご両親を含めて進んでいる」こと、「メンタルのケアのほか復帰を見越した、既存メンバーを含めた体制の整備を行っている」との説明があった。

②組織再編の件

- ・組織再編や代表の異動などは、前年から意思決定の迅速化と筋肉質な体制構築を目的に検討しており、中坂美祐の件が契機になったということではないことを明言した。
- ・株式会社ゼストではSKE48以外のコンテンツが増加し、それを踏まえて意思決定のスピード向上と筋肉質な組織体制の構築を進めており、SKE48はSKE48としてリブランディングを含む収益体制の確立を目指している旨を説明した。

【参加者】 復帰時期の不透明さへの不安と本人の現状（メンタルを含む）への懸念。

【大出】 復帰時期は現時点で明言できないが、本人のメンタルケアと関係者対応を継続している。早期復帰と断定はできないものの、本人とご両親を交え真剣に議論し、前向きに検討しており、本人は強い意思を持ち復帰に向けて手順を踏む意志を持ってきており、運営としても助けられている。

【参加者】 復帰時のステートメント整備とSNS憶測への対応強化、関係性悪用のガバナンス課題の指摘。

- 【大出】 再発防止を最優先課題とし、「次があったら終わり」という強い危機感を全体で共有し、再発防止を最優先で取り組む姿勢で、人員補強と役員も含めて日々の管理徹底を含む体制強化を実施中である。
- 【参加者】 今回の問題の核心が「メンバーの恋愛的行動」か「業務上パートナーとの業務範囲超過関係」かの比重、並びに恋愛ルールの有無の確認。
- 【大出】 男女の関係など、そういったものは一切なかった。LINE 等の連絡で第三者が疑念を抱くようなやり取りの証拠が目に見える形で社内関係者に伝わったため、将来的な露見が中坂美祐自身のファンの信頼を損なうリスクと判断し、リリースすることで「けじめをつける」という目的で、対応を実施した。
恋愛禁止については、明確なルールはないが、「ファンに支えられてのアイドル像があるのではないか？」ということは常日頃伝えており、万一があった場合にはそれ相応の処分なし、アイドル活動を継続する意義を問う方針である。
- 【参加者】 分社化に伴う方針説明要請と経営陣の見解共有。「何が変わり、何が変わらないか」、リブランディングの方針・目標について新代表となる予定の北川社長・大山社長への説明要請。
- 【大出】 従来の SKE48 の価値を守りつつ、「リブランディング」という意味で、大胆な選択肢も含めてあらゆる可能性を検討している。また（従来と異なる視点やマインドを取り込む狙いから）マーケティングや SNS に強い著名社長 2 名の社外取締役就任を予定している。経営陣の意見は分かれているが、既存ファンを大切にしつつ新規獲得を含むリブランディングを議論している。
- 【北川】 試行錯誤の段階であり、認識と文化継承・挑戦の両立方針ほか、現状経営者の関与など意見はバラバラである。経営陣は現段階を試行錯誤の手前と位置づけ、数値とそれ以外の両軸での検討をしており、ファンに支えられてこそ SKE48 であることから、文化・歴史の継承と新しい挑戦の両立を掲げて取り組んでいく考えである。
- 【大山】 前職の食品会社時代に SKE48 とのコラボやイベント運営経験を行った過去があり、ご縁あって現在携わっている。2 名代表体制であるが、メンバーの活動だけでなく、支えるスタッフを含めたガバナンス体制の強化が必要で、50 名以上のメンバー管理やスタッフ管理・教育を含めての体制と理解している。共通認識はあくまでも SKE48 のリブランディングだと考えている。
- 【参加者】 （組織再編を踏まえた要望）大型会場での公演を分社化のタイミングで掲げるべき大目標として発信してほしい。IG アリーナでの運動会開催経験に触れ、同会場でのコンサート開催やバンテリドーム再公演の夢を共有。大目標を段階的ステップで叶える計画発信を要望。

=====
2. 【事前アンケートで参加者から最も多かった質問への回答】

座談会の参加申し込み時に応募者からの事前アンケートを集計し、数が多かった或いは重複していた内容などを中心に回答した。

第1問：劇場公演の安全対策（不正購入者・複数アカウントによる前方確保への対応）について。

【大竹】 外部の情報を鵜呑みにせず、運営関係者による裏付けや公式データ照合・蓄積の上で判断している。プレイガイドやプラットフォームの発券履歴に基づき購入状況・席位置を照合、該当者への個別対話と親会社 KeyHolder の法務部門との調整の上で法的準備を進めつつ、対応している。

第2問：今後の活動展望、「プロジェクト・大箱ライブ・海外展開・テレビ露出」観点で20周年に向けたロードマップ構想。

【齊藤】 SKE48の20周年（2028年10月5日からの1年）に向け、他の48グループとは異なる打ち出しで差別化を図りたいと考えている。名古屋発の大箱会場（ドーム愛知を示唆）を視野に、年次イベント計画（18周年、19周年、20周年、翌年の大箱確保）を段階的に検討する方針でいる。
目標のタイミング・内容をファンとの対話も踏まえて明確化して発信、名古屋の会場候補として中規模ホール（ガイシホール、センチュリーホール）に加え、IGアリーナ、バンテリンドームなどを目標としている。ポイントは以下のとおりである。

ポイント①：54人全員が輝ける状況の構築、SNS発信強化。個性・一芸の育成を促す。

ポイント②：既存ファン満足度向上と新規獲得の二軸アプローチ。大運動会の実施、5月「ファン感謝祭」を予定。新規層への具体施策として、女子eスポーツチーム「amshy(アムシー)」や、ショートドラマアプリ BUMP ドラマ「IDOL OF THE DEAD～あなたの隣は死にました～」の世界配信、また、同作品の出演メンバーも所属する OneGem などの結成展開などが挙げられた。

ポイント③：各メンバーのストーリー形成。歴史あるグループとしての軸を活かし、ファンに見守り・応援を要請。

ポイント④：チーム制と専用劇場を核に差別化。新公演を4/26開始予定。継続的レッスンでパフォーマンス力強化。

第3問：メンバーの選抜・構成・ポジション決定に関する質問。

【齊藤】 選抜は楽曲世界観への適合を最優先し、売上指標・活動状況・SNS 話題性等を総合最適化して決定している。最終的に秋元先生と協議して確定しており、編成変更の経緯（12人→16人→現行）と多様な「色」で機会拡大を目指す方針でいる。

第4問：株主限定公演実施の可能性。

【大出】 株主限定劇場公演は2021年5月に一度実施も来場はごく少数であった。参加見込みが十分と判断できるならば再実施を検討することは可能と考える。

第5問：ライブチケットの当選確率を上げる仕組みの導入。

【大出】 ライブチケット抽選は株式保有数に応じた抽選券（応募口数）の付与により当選確率が上がる設計となっている。今後も、試行錯誤を継続する。

第6問：ファン以外への訴求に向けた成長戦略・株価向上施策。

【大出】 第2問で言及されているとおり、SNS 主流の手法や楽曲制作プロセスの工夫を取り込み、SKE48に限らずキーホルダー全体のプレゼンス強化と事業積み上げで株価向上を目指す。「キーホルダーは何をやっている会社なのか？」という市場認知の弱さを課題と認識しており、乃木坂46事業の（持分法投資利益）のように、事業積み上げによる認知向上を目指したい

=====

3. 【質疑応答】

参加者からのフリー質問に対して、それぞれに回答した。

【参加者】 組織再編によって、代表は変わるとのことだが、齊藤氏は続任されるのか。

【齊藤】 当然継続となればしっかり続任させていただく意向である。

【北川】 当然にその責務を全うしていただく予定でいる。

【参加者】 座談会の定期的開催の要望。及びテーマ別の座談会開催（四半期開催など）の要望。

【北川】 第3回も是非継続した開催をしたいと思う。様々なご意見を参考にできるチャンスでもあるため、ファンミーティングや支配人部屋のコミュニケーションも検討したい。

【齊藤】 過去の試みを踏まえ、両社長に確認を行いつつ開催方式を検討・進行する考えでいる。

【参加者】 OG 活用による現役との融合と歴史継承を提案。周年や大規模イベントに向けた事前スケジュールリング、YouTube 等での発信も提案。また、HKT48 での事故を受けた安全対策の現状・考え方の説明要望。

【齊藤】 20 周年に向けた OG 活用の検討方針はある。また、事故の未然防止にあたっては、劇場入口のセキュリティ強化、特典会での警備員強化・配置、飛沫シート継続の賛否はあるものの、過去の大きな事件を受けての横壁撤去で視認性確保という対策を取らせていただいている。メンバーの安全が第一であるためご理解をいただきたい。

【北川】 事件が風化してしまうのは絶対にあってはならない。周りの目（抑止・監視）を増やすという意味を含めての対応であるため、是非ご理解をいただきたい。

【参加者】 「劇場盤ファン大感謝祭」の詳細情報を早期に公開してほしいとの要望。

【齊藤】 公開が遅れてしまっていることへの謝罪。過去に実施したストライクアウト、バドミントン、トランプ、カラオケルームのような企画を現在検討中であり、各企画の香盤（タイムテーブル）作成を含めて準備に時間を要しており、もうしばらくお待ちいただきたい。

【参加者】 握手会の開催回数減少や参加方法の制限に関する課題と、今後の改善策について。

【齊藤】 会場を確保するためにはリリースタイミングを早期に決定する必要があるが、他グループとの重複や様々な関係値を考慮するとどうしても決定がギリギリになってしまい、これにより会場のスケジュールがうまく取れず、回数変動することがある。

全国握手会（全握）については、Tick tack zack の際に久しぶりに開催したが、運営が期待していたほど過去のファンの回帰がなく、運営側の力不足が原因と考える。全握は中止したわけではなく、再挑戦したい意向はある。

今後の運営方針は、シングルごとの予算全体を考慮し、会場確保や感謝祭などのイベント、シングルの特典会で何を重視するかを整理して進める。現在発表済みの「サンダルだぜ」の次のシングル以降で、ご意見も踏まえてしっかりと検討してゆく。

【参加者】 他のイベントに比べて新公演の盛り上がりが不足しており、本当に開催されるのか。

【齊藤】 初日に向けてレッスンは継続しており、レコーディングも間もなく完了する。近日中に正式な情報公開（告知）のタイミングを案内し、4月26日に新公演の初日は必ず実施する。

【参加者】 舞台『推しが武道館いってくれたら死ぬ』の成功を受け、コラボ継続や関西での開催を望む意見が出された。以前要望した関西のイベントが増えたことに対し、感謝の意が述べられた。

【齊藤】 大阪でのリリースイベントが無かったのは会場スケジュールの都合。今回は必ず大阪開催を検討したいと思うが、代わりに大阪でのフェス出演などを検討中である。今後も主催であるブシロード社と協力して、既存ファンだけでなく新規ファンを獲得するための新しい企画に挑戦していく方針である。

【参加者】 握手会会場の運営改善について各レーン前のスペースを通行可能にしてほしい（他グループでは通路として利用可能）。休憩用の椅子を入口・出口付近だけでなく、奥のレーン付近にも増設してほしい。AKB48 で復活している「素手での握手」を SKE48 でも再開してほしい。

【齊藤】 これまで寄せられたご意見に基づき改善に取り組んでいる。スピード感に欠ける点があることを謝罪し、改めて社内で検討を進めていく。

【参加者】 オンラインストア「コラゾン」の運営に関する多数の問題点が指摘され、改善または業者変更などの必要性が要望された。「商品発送メールが商品到着後に届く」「特典が同梱されない」「発送が大幅に遅れる」「問い合わせへの返信がない」など多数の問題が指摘された。

【齊藤】 販売委託先と担当しているエイベックスを通じて状況を確認し、改善を進める。

【参加者】 名古屋の他アイドルが解散していく中で、SKE48 が名古屋のアイドル界を牽引する存在として、名古屋における大規模な主催フェスを開催することが提案された。

【齊藤】 20 周年での開催や、その過程において SKE48 が中心となるフェスの開催は必ずやるべきだと考えている。SKE48 が名古屋・東海の代表としてアイドルを牽引する必要性を再認識しており、開催する際は、名古屋だけでなく東京や大阪、他の 48 グループからもアイドルを招聘し、SKE48 らしいフェスを実現出来ればと考える。

【参加者】 メンバーのセカンドキャリア支援体制と卒業後のロードマップについて。

【齊藤】 日頃からメンバーに将来を見据え強みを伸ばすよう話している。卒業相談時も「そのままその意思を受け入れるような」やり方や言い方はしない。きちんと向き合い、本人が本当にやり切ったかどうかを重視した対話を行っている。アイドルグループでは珍しく、メンバーの将来を考えた、セカンドキャリアとしての道を用意している組織である。

【北川】 グループ会社に専門の担当役員を置き、卒業意思が固まったメンバーの希望をヒアリングする体制がある。芸能活動の継続のほか、20 社を超えるグループ企業への就職、外部企業の紹介など、幅広い選択肢を用意しており、次の夢に向かって進める職業を紹介できる体制を構築している。

【大山】 この支援体制はアイドル事務所として珍しいモデルだと自負しており、今日の司会の高畑さんもゼストに所属しており、今日のように卒業後の関りを持てるような工夫をすることで、卒業後も活躍できる環境作りに努めている。

【参加者】 20 周年に向けた全国ツアーの完遂はされるのか。握手券システムのデジタル化が要望された。顔認証や Web で枚数変更が可能な「ブースティ」のようなデジタルシステムの導入を求めた。

【齊藤】 全国ツアーの完遂については、20 周年に向けたストーリー作りの一環として良いアイデアであり、改めて検討したい。握手券システムのデジタル化については、（レコード会社などとの）様々な事情があるため一旦預かりたい。

【参加者】 競合グループがアートディレクションなどの見直しで成功している例を挙げ、SKE48 のクリエイティブ管理体制について質問。劇場の設備や掲示物に関する改善、劇場の荷物預かりなど、改善の余地が多いと指摘。

【齊藤】 エイベックスが関わるシングル案件については、自身とエイベックスのチームがクリエイティブコントロールを担い、シングルの世界観を統一している。アーティスト写真や MV も一貫性を持たせていると認識している。SKE48 も全体のブランディングを意識する必要があるというご意見に対し、これまでは人員等の事情があったが、新体制下ではしっかりと意識していく方針でいる。

【大塚】 劇場の設備や掲示物に関する改善は進めているので、今後も継続する。劇場の荷物預かりについても再度取り組む意向でいる。なお、ロビーのフラッグは老朽化のため取り外しているわけではなく、待機列の都合も考慮して検討したい。

【参加者】 メンバーからの意見を吸い上げ、前向きに検討する体制を強化してほしい。

【齊藤】 現在は松本慈子やチームリーダー陣との定例ミーティングを通じて現場の意見を吸い上げる体制を整えている。メンバーからの意見は予算を理由にせず、テーブルに乗せて対応を検討、実現できることは実行していく方針であるため、ご安心いただきたい。

【参加者】 過去のコンサート映像の恒常的な視聴方法について、実現可能性を今後検討してほしい。近年のコンサート映像が DVD/BD 化されず、配信も期間限定で見られない問題が指摘され、サブスクのような常時視聴できる仕組みが要望された。

【大竹】 課題として、権利が分散している点や、継続配信の費用が挙げられる。マネジメントチームと共に映像倉庫のような仕組みが作れるものか、DMM で管理できるかなどを確認し、今後どのような対応が可能か模索したい。「やらない」とは決めつけずに検討する。

=====
4. 【座談会の総括】

組織再編後の体制に基づき、運営責任者である齊藤哲也、共同代表を務めることになる北川謙二・大山武志の3名から、本座談会に関する総括として、それぞれ挨拶を行った。

【齊藤】 長時間にわたり多くの温かいご意見をいただき、御礼申し上げます。前回と同様に、皆様とこのように会話を持たせていただくことで力をいただいております、改めてSKE48をもっと頑張らないと、という気持ちになる次第。先日ミミフィーユの東名阪ツアーを発表したとおり、今年はユニットにも一層注力して育てていかなければならないとも思っているが、個々の活躍の場も増やしたい、これはどういう事かと言うと出城を増やしたいという意図であり、出城を増やして活躍の場を増やすことで、結果としてSKE48に還元されると考えている。昨年は相川のバズりが良い形でテレビ出演に繋がったほか、名古屋PARCOのストリートライブパフォーマンスなどを通じ、歌唱力のあるメンバーをフックアップする機会になると思っているので、これらをもって20周年を良い形で迎えられようようにしたいのが、今のSKE48の戦略・目標として設定している。皆様には是非引き続き応援をいただきたいと思う。

36枚目のニューシングルは「令和のパレオはエメラルド」のようだという温かいお言葉を頂戴しており、「久しぶりのアイドルソング」「SKE48はこうじゃなきゃ」という言葉をSNS上で数多く頂戴している。皆様がSKE48は本当に応援していて本当に楽しいと、より思っていただけのような環境をしっかりと作っていきたいと考えているので、引き続き応援を宜しくお願いしたい。

【大山】 本日は参加者の本当に熱い気持ちが伝わってきたので、とても嬉しく、また心強くも思った。斎藤さんからも話があったように、20周年がゴールではなく、一つの通過点として見るべきポイントではないかと思っている。我々も4月1日から新体制になるが、既にこういう動き出しを北川とともにやっていきたい。

皆様のお話を聞きしながら、やはりSKE48ファンは熱いと思った。自分もファンだった時の話であるが、今でも誇りに思っているのはAKB48のドームツアー（ナゴヤドーム）でのアンコールのコールである。本来AKB48であるべきところを、自発的にSKE48になった。あのコールは本当に忘れられなく、その思いは今も残っている。この思いはきっちり胸に抱き、会社の経営ならびにメンバーに向き合ってゆくので、引き続き応援のほどよろしくお願ひしたい。本日の参加者には改めて感謝申し上げたい。

最後に、エーカンパニーの社長としてバスツアーのメール誤送信問題では大変ご迷惑をお掛けしたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。

【北川】 これから大山とともに共同代表として運営を担うにあたり、身が引き締まる思いでいる。皆様方の言葉は SKE48 に対しての愛情・期待、そして激励のお言葉だと思っている。

私自身 2008 年の SKE48 立ち上げの頃から、当時は映像スタッフとして、セカンドシングルから 14 枚目シングルまではミュージックビデオの責任者としてクリエイティブにも携わっており、AKB48 の選抜総選挙や AKB48 のシングル撮影でも SKE48 メンバーとは何度も一緒に仕事をしたので、特に思い入れの深いグループである。巡り巡って、今回このような形で運営に携わることで、今まで皆様と一緒に築いていただいた SKE48 の歴史・文化を大切にしながらも、やはり拝命したからには、これからの新しい SKE48 を作りたいと思っている。

その上で、チャレンジをする部分もあれば、批判やお叱りをいただくことがあるかもしれない。しかし、それは必ずその先に SKE48 のメンバーが全員輝き、ファンの皆様が誇りに思ってもらえる、そんなグループを作ってゆく過程だとして、これからも是非温かく見守っていただきたい。

本日、バンテリンドームの話が出たが、私も一つ懺悔がある。SKE48 で初めて単独で行ったコンサート会場における最後アンコールの際に、逆再生させた BGM を使ったミュージックビデオの撮影を行い、観客を困惑させたことで問題を起こしたことが過去にあったので、改めてここでお詫び申し上げたい。

20 周年或いはその先かは定かではないが、私にとってもバンテリンドームは絶対にリベンジしたい場であるため、是非引き続き温かいご声援お願いしたい。

以上